

カトリック河原町教会だより

2023年11・12月

教皇フランシスコ 2023年6月4日「お告げの祈り」でのことば(抜粋)

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、こんにちは。

今日は三位一体の祭日です。今日の福音箇所は、イエスとニコデモの会話からの一節です(ヨハネ3・16-18参照)。彼はイエスのうちに神そのものを認め、夜、密かにイエスのところへ話しに行きます。イエスは彼の話の聞き、神の神秘を探求している人だと理解し、こう答えて、ニコデモを驚かされます。「人は、新たに生まれなければ、神の国をみることはできない」(同3節)。そしてその神秘の中心にあるものとは、「神は、その独り子をこの世にお遣わしになるほど、人間を愛された」ことだと続けられます。ですから、その神の御子であるイエスは、御父とその計り知れない愛について、わたしたちに語られます。御父と御子と聞くと、家庭に戻ったような気がします。そうです、このように、いのちを分かち合う食卓を囲む家族のイメージをとおして、神を考えることができます。そしてこの食卓は同時に祭壇を意味し、いくつかのイコンは三位一体を描く上で、この食卓をシンボルとしています。聖霊は、神とともに食卓を囲み、神の愛を分かち合うよう、わたしたちを招いてくださっていると言えるでしょう。これはイメージですが、すべてのミサで起きていることです。ご聖体をのせた食卓という祭壇で、イエスはご自身を御父にささげられ、わたしたちのためにご自身をささげてくださっています。そうです、兄弟姉妹の皆さん、このようにして私たちの神は、愛のうちに交わってくださり、イエスはわたしたちにご自身を現わしてくださるのです。このことをどうしたら覚えていられるでしょうか？子どもの頃に習った、簡単な身振り、つまり十字架のしるしをすることで覚えていられます。からだの上で十字架のしるしをすることで、神がいかにわたしたちを愛しておられるか、ご自身のいのちをささげられるほど愛しておられるかを思い起こすことができます。そして神の愛が上から下、左から右へとわたしたちを完全に包み込んでくださるしるしを、決してわたしたちを見捨てることなく抱擁してくださっているように、繰り返し行うのです。神は愛。御父であり御子であり聖霊であるのです。神はわたしたちのために、そのいのちを与えてくださいました。だからこそ、わたしたちは十字架のしるしをします。



教会の様子(インスタグラムより)



オー・カム、オー・カム、インマヌエル

アドヴェント(待降節)とは、クリスマス前の4週間のことで、メシアであるイエス・キリストの到来を待ち望み、それを祝う期間です。待降節の語源はラテン語の *adventus* で、簡単に訳すと「到来」または「到着」となります。アドヴェントの季節は、私たちすべてに対する神の愛を証しし、宣言する機会を与えてくれます。待降節は、今日の世界におけるキリストの誕生のために、私たちの心と家庭をどのように準備することができるかを考えることにあります。信仰共同体や家族にとって、祈り、内省、特別な音楽、善行を通して、イエスの誕生の真の意味を思い起こす時なのです。

アドヴェント・シーズンは、パーティーやショッピング、年末の喧噪に明け暮れる時期から離れ、キリスト教信仰において最も神聖な時期のひとつであるイエスの誕生をどのように記念するかを考えるよう私たちを誘います。また、再臨のイエスの勝利の再来について考える時でもあります。また、待降節には、クリスマスの喜びを十分に味わうための準備、静寂、心の鍛錬という意味での懺悔の要素も含まれています。

通常、常緑樹の枝で作られたリースには、アドヴェントの各週に1本ずつ、計4本の蠟燭が飾られ、クリスマス・イヴには5本目のキャンドルであるキリスト・キャンドルが灯されます。リースとキャンドルは、クリスマス・シーズンと結びついた象徴に満ちています。蠟燭は、希望、愛、喜び、平和、キリストの誕生への期待といったテーマを表しています。では、アドヴェントリースは何を象徴しているのでしょうか？ 様々な常緑樹でできたリースそのものは、絶え間ない生命を意味します。始まりも終わりもないリースの輪は、神の永遠性、魂の不滅性、そしてキリストにある永遠の命を象徴しています。

待降節は、私たちの人生の欠点を認識し、プライドの粗さを滑らかにし、来てくださるイエスのための場所を作る時です。内省し、霊的に成長し、キリストの誕生という歴史的な出来事とキリストの再臨という未来への期待の両方において、キリストの到来という希望と約束を受け入れる時なのです。キリスト教の教派によってアドヴェントの伝統の詳細は異なるかもしれませんが、その中心的なメッセージは普遍的なものであることに変わりはありません。私たちは神に立ち返り、クリスマスに再び神を迎えることができるように心を整えましょう。私たちの内側にある平安とともに、私たちが本当に生きることを止めている悲しみを捨て去り、人生の山や谷を平らにし、そうすることで、今年再びあなたの内に生まれてくる幼子の到来に備えることができるのです。このクリスマス・シーズンに、ゆっくりとした時間を見つけ、イエスから目をそらすものに「ノー」と言い、神があなたに体験してほしいと望んでおられる贈り物に「イエス」と言うことができますように。



シスター テッシェー

七五三のお祝い

11月12日10:30 ミサの中で菅原神父様から七五三のお祝いの祝福を頂きました。神父様からおメダイをかけて頂き、千歳飴とお菓子が配られ、和やかな雰囲気の内にお祝いが執り行われました。



京都モダン建築祭

京都モダン建築祭に11月2日・3日・4日・10日・11日に参加し、約2,000名ほどの訪問がありました。好評の内に無事閉祭し、当聖堂の魅力をアピールすることが出来ました。



河原町教会のあれこれ

時代祭の日、
ウィリアム
神父様が自転
車で颯爽と来
られる。



チェ神父様
がふらりと



10月ロザリオの祈りが再開

11月2日瀧野神父様司式の死者の日ミサ

2023年12月～2024年2月までの主な予定(予定は変更になる場合があります)

月	日	曜日	行事予定
12	2	土	司教座聖堂献堂記念ミサ 10:30 [待降節第1主日](B年)
	3	日	聖フランシスコ・ザビエルの祝日 京都教区司教座教会献堂記念日 宣教地召命促進の日(献金)
	8	金	無原罪の聖マリア
	10	日	[待降節第2主日] 菅原神父霊名<アンノ 12/5>のお祝い 10:30 ミサ中
	17	日	[待降節第3主日]
	24	日	[待降節第4主日] ミサ 7:00・10:30 ナン神父霊名<ステファノ 12/26>のお祝 10:30 ミサ 主の降誕(夜半)ミサ 13:00(英語)・18:30・21:00
	25	月	主の降誕(日中)ミサ 7:00・10:30 (英語ミサは無し)
1	31	日	聖家族 瀧野神父霊名<ステファノ 12/26>のお祝 7:00 ミサ
	1	月	神の母聖マリア(元日ミサ)7:00・10:30 世界平和の日
	7	日	主の公現
	8	月	主の洗礼 洛東ブロック合同ミサ 10:30(桃山教会)
	14	日	[年間第2主日]
	18	木	キリスト教一致祈禱週間(～25日)
2	21	日	[年間第3主日](神のことばの主日)
	28	日	[年間第4主日] 世界子ども助け合いの日(献金) 河原町教会総会 10:30 ミサ後
	2	金	主の奉献
	3	土	福者ユスト高山右近殉教者
	4	日	[年間第5主日]
	5	月	日本 26 聖人殉教者
2	11	日	[年間第6主日] 世界病者の日 病者の日ミサ 10:30
	14	水	灰の水曜日(四旬節)(大斎・小斎) ミサ 7:00・18:30 四旬節愛の献金(四旬節中)
	18	日	[四旬節第1主日] 洗礼志願式 10:30 ミサ中
	25	日	[四旬節第2主日]



主日ミサ(集会祭儀)の時間

土曜日 18:30

日曜日 7:00、10:30、
12:00(英語・第2第4のみ)

週日ミサの時間

水曜日 9:30

金曜日 10:30

最新の情報はウェブサイト参照

講座の時間(休講の日も有り)

これから洗礼を受けられる方向け

洗礼準備講座

土曜日 11:00(菅原神父)

一般向け

キリスト教入門講座

金曜日 19:00(瀧野神父)

「キリスト教とは何か」

キリスト教入門講座

土曜日 16:00

(Sr.テッシーのチーム)

「こころにひかりを」

養成講座(信徒・一般向け)

読書会

「イエス・キリストの言葉」読書会

1月24日から「キリストの誕生」

水曜日 10:00(瀧野神父)

要理通読会

「カトリック教会のカテキズム

要約」の通読(12月は休止)

木曜日 11:30(菅原神父)

聖書の集い

金曜日 11:00(Sr.テッシー)

聖体顕示式

第3土曜日 15:15(菅原神父)

「ガラテヤ書」を読む

第1土曜日 19:20(菅原神父)

「マルコ福音書」を読む

第2日曜日 11:40(菅原神父)

「これから洗礼を受けられる方向け」は事務室か

rakuto.nyumon.class@gmail.com

まで事前にご相談ください。

カトリック河原町教会だより 2023.11・12 カトリック河原町教会広報部発行

〒604-8006 京都市中京区河原町三条上る下丸屋町423 発行責任者:洛東ブロック司牧チーム

TEL:075-231-4785 FAX:075-211-8021

URL:<http://CatholicKawaramachi.Kyoto>